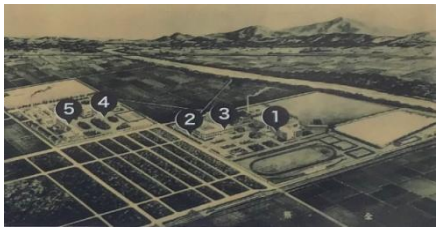
さようなら大阪市立大学

あと 1 ヶ月で、「大阪市立大学」という大学の名が消えてしまう。なんとも淋しい。関一市長時代から伝統ある大阪市立大学は、私が研究者への道を歩み始めた大学であり、今も毎日のように図書館などを利用させてもらっている。写真は学術情報総合センター1 階に展示されていたものだ。

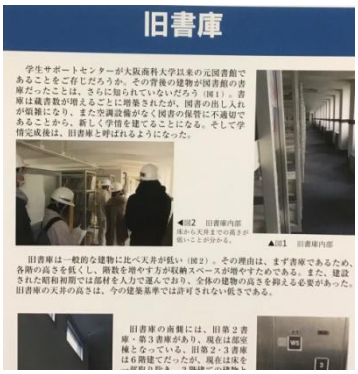
「さようなら」という言葉が悲しくなるが、なぜ大阪市大がなくなるのか、学生・教職員らはどう考えているのか。キャンパスを歩いていると、つい遠い昔のことが思い起こされる。

1971 年 3 月に信州大を卒業して、不安と希望に燃えて松本から大阪に向かった。大阪市立大、大学院経営学研究科の宮本憲一先生のもとで研究したかったからだ。大学近くに下宿して、朝早くから図書館閲覧室にこもった。大学院ゼミにも、「もぐり聴講」させてもらった。



2 年浪人して、なんとか大学院に入学でき、修士課程から博士課程に進み、1979 年に名古屋市立女子短大に就職した。それから 35 年の教員生活を経て、4 年ほど前から大阪で暮らすようになり、再び大阪市大に通っている。

人生は不思議なものだ。「さようなら大阪市立大学」として、写真から私なりにすこし振り返ってみたい。キャンパスに案内されている①本館（1 号館）、②旧図書館、③倉庫棟（旧書庫）の写真が懐かしい。本館 2 階で大学院入試を 2 回受けたこと、旧図書館で、修士論文を書くため数時間も資料あさりをしたことなどが思い出される。旧書庫には、都市問題や公共事業などの貴重な文献が数多く並んでいて活用させてもらった。



写真下は朝日 25 日夕刊社会面「試験会場に入る受生たち＝25 日午前」である。国公立大学の 2 次試験の風景だ。入試会場の 1 号館が見えるが、これは「大阪公立大学」の入試である。今回の入試で合格した学生は、本キャンパスで学ぶが，2025 年からは森之宮キャンパスの予定だ。複雑な思いで写真を眺めた。

（2022 年 2 月 28 日）